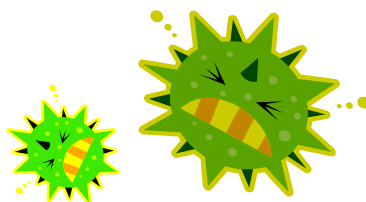


平成20年12月

京都市こどもの感染症

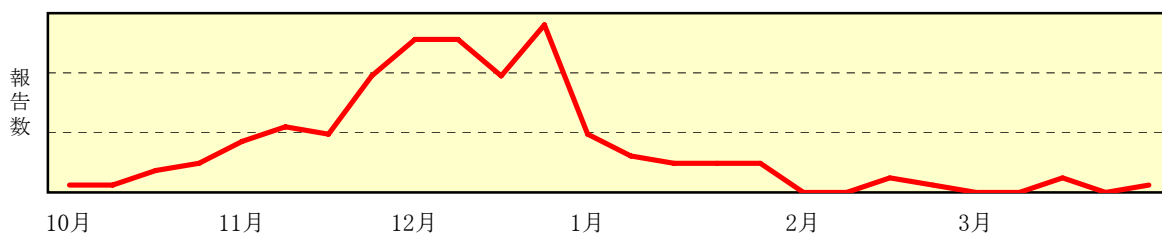


★★ 去年の今ごろ、京都市で多かった感染症

順位	病気の名前	特徴、予防法など
1位	感染性胃腸炎	発熱、下痢、嘔吐などが症状です。予防は、調理前、食事前、トイレの後などの手洗いが基本となります。下痢や嘔吐が続くと脱水症になりやすいので、水分補給をこまめに行いましょう。
2位	水痘 (水ぼうそう)	全身に発しんができます。感染力が強く、肺炎・脳炎・髄膜炎などの合併症を併発することもあります。発病3日以内に抗ウイルス薬を服用することで、症状の軽減が期待できます。予防接種は任意（1歳以上で、1回接種）ですが、集団生活をする場合は、受けておかれることをおすすめします。
3位	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	のどの痛みと発熱で始まり、赤い発しんが全身に広がります。3～4日すると、舌がいちごのように赤くなってぶつぶつ（いちご舌）になるのが特徴で、4～5歳のこどもに多い感染症です。

★★ RSウイルス感染症を知っていますか？ ★★

RSウイルス感染症は、接触や飛沫により感染し、症状は、発熱、鼻水、咳などです。2歳以下の乳幼児では、しばしば気管支炎や肺炎を発病し、特に6ヶ月以下の乳児では入院を必要とすることがあります。主に乳幼児の間で、秋から春にかけて流行します。



予防は、
うがい・手洗い・マスクの着用で！

RSウイルス感染症は、感染者の気道分泌物への接触や咳で生じた飛沫を介して感染します。接触感染の予防には手洗いが、飛沫感染予防にはマスクの着用が有効です！



★★ 12月1日は、世界エイズデーです！ ★★

Living Together ～ちよつとの愛からはじまる事～

「ちよつとの愛」というのは、すごく大きなことでなくても、それぞれが、できることがあるかもしれない、ちよつと相手の立場に立って考えてみよう、というように、HIV/エイズに関して、一人一人に自分なりの関心を持ってもらいたいという願いが込められています。

◆◇ 気になる症状があるときは、かかりつけの医療機関に相談しましょう ◇◆

発行 ☆ 京都市保健福祉局 保健医療課 / 衛生公害研究所
(本号及びバックナンバーは衛生公害研究所のホームページからも御覧いただけます。)